聖霊降臨節第 22 主日礼拝説教要旨(10 月 18 日)

『平和の計画』早川 真牧師

エレミヤ書 29:4-14

神は私たちの心がどこに向かっているかをご覧になっておられます。心が人や物ではなく、それらを与えて下さる神ご自身に向かっているかを見ておられます。イスラエルの民はバビロン捕囚を通して、言わば形あるものをすべて失いました。しかしそのことによって、形あるものを与えて下さっていた神に再び心を向けることとなりました。自分たちがバビロン捕囚という苦難に遭ったのは、自分たちが神に依り頼まず、神の教えを守らなかったことが原因だと思い至り、神殿を失った代りに会堂を立て、律法の書を読み、再び神により頼むことを熱心に祈り求め始めたのでした。旧約聖書が編纂されたのもこのバビロン捕囚期だと言われています。

今、私たちも苦難の中にあるかもしれません。しかし、その中で心から神を呼び求める時、神は祈りを聞いてくださいます。そして神はキリストを通して全ての人に出会ってくださいます。その時、神の平和の計画が実現し、苦難の場所が平和の場所へと変えられていきます。

今朝の個所では、バビロンの町のために平和を祈るようにとの勧めがありましたが、私たちもまたこの地のために平和を祈るべきであることを思わされます。この地上において、失われた人との関係、自然との関係、そして何より神との関係があります。それらの関係が回復し、この地に平和が与えられるように祈りたいと思います。

神様は私たちに一人一人に平和の計画をもっておられます。やがて天の国に帰るその日まで、神があらゆる恵みでおひとりひとりを満たしてくださるように、そして全ての人が、失われた関係を回復する神の平和の計画の中を歩めるよう、共に祈りを合わせたいと思います。